

[第32回学術集会 シンポジウム2]

## こどもの声を聴く対話—こどもが求める“えん”を考える

座長

澤田いずみ (札幌医科大学保健医療学部看護学科)

松澤 明美 (北海道大学大学院保健科学研究院)

シンポジスト

田島 和仁 (北海道つぼみの会 事務局長)

田島 由香 (北海道つぼみの会 事務局)

野田 遥 (株式会社LITALICO)

野田 孝子 (北海道自閉症協会札幌分会 元副会長)

概要

2023年4月、「こども基本法」が施行され、こどもアドボカシーをはじめとするこども自身が願いを語れる体制の整備が始まっています。私たち看護者は、健康という事象を通じて様々なこどもと家族に出会います。しかし、保健医療サービスを媒介としたその出会いは、限られた場面、限られた時間であることも事実でしょう。こどもたちは、病や障害と名付けられた特性を抱えながら、長く続くその育ちの中で、何を感じ、何を考え、何を望むのでしょうか。

今回は、そのような体験をもつこども・きょうだいの育ちの体験を、過小評価も過大評価もすることなく聴いてみたいと思います。その人と“えん”ある家族が語るモノローグ、そして、両者のダイアログが紡ぐ物語を聞き、子ども・家族の体験と対話することへの理解を深めたいと思います。私たち看護職がこどもと家族の育ちにできることは何か、新たなえん（縁・援）の在り方について、理解を深めてみましょう。